

Ⅷ. 昆虫

ii) 蛾類

柳田恒一郎

1) 概要 1
2) 調査の方法 1
3) 確認種リスト 2
4) 重要な蛾類の記録 2
5) 外来種 5
6) データ 5
7) 参考文献等 5

1) 概要

宮崎県延岡市に生息する蛾類について、筆者らは2000年に「延岡市環境基本計画 自然環境調査」報告書として、計898種をまとめた¹⁾。その後、市町村合併に伴い、北浦、北川、北方の三町が延岡市エリアとなり、今回は、それらの新規エリアの文献データをさかのぼって調査するとともに、前回(2000年)の報告以降の現地フィールドでの調査記録をまとめたのでここに報告する。

今回の調査で記録された、延岡の蛾類は37科972種に及ぶ。前回¹⁾の記録と合わせると、43科1204種となる。

日本に生息する蛾類は5000種を超える。種ごとに、さまざまな木本植物・草本植物・地衣類、さらにはセミ(昆虫)を食べる種まであり、生息環境も、森林性の種、草原性の種、海浜性の種など、その適応は多岐にわたる。それゆえ、正確な蛾相を把握するためには、多くの環境を網羅的に調査する必要がある。これは非常に労力を要し困難なのが現状であるが、今回の調査にあたっては、これまでも宮崎県の蛾相解明に大きな貢献をされてきた朝日延太郎氏および移動性蛾類の研究で有名な宮原義雄氏をはじめ、安本潤一氏、木野田毅氏らの精力的な調査によって、前述のように合計1000種を超える蛾類の生息を確認することができた。

延岡は、海岸に面し、かつ大崩山や桧山、行藤山のような山岳地帯をも有するため、海浜性のメイガ類から、ブナ帯の固有種まで、幅広い蛾相を有していることが確認された。また、調査を行うたびに、宮崎県初記録や分布が解明されていない種が記録されるのも蛾類調査の特徴である。これは、蝶に比べて蛾相の調査が遅れていること、そして蛾類調査者がいまだ少ないことが原因であろう。それだけに、新発見を得やすく、調査活動が面白い分野であるとも言える。

従って、今回の調査においても延岡市の蛾相を十分に解明できたとは言えず、今後もさらなる新知見が増えていくと思う。今後の課題として、継続的なデータの蓄積を図っていくとともに、蛾類の調査者・研究者がさらに増えてくることを願いたい。たとえば、学校教育やクラブ活動等を通して、自然や昆虫類に興味を持つ若者が増えてくると嬉しい限りである。

2) 調査の方法

ここにまとめた蛾類のデータは、下記の方法で調査したものである。

1. フィールドでの調査(採集・撮影・目撃)

蛾類の多くは、夜間光に集まる性質を持っているため、蛾類の調査には、夜間の灯火採集が効果的である。採集標本の同定および写真による同定を行った。近年は小型で高性能のデジタルカメラが普及するようになり、写真による記録が容易に残せるようになったのが便利である。携帯電話のカメラ機能も、接写撮影が可能であり、フラ

ッシュ機能も付与されるようになり、出先での蛾類の記録蓄積に重宝している。夜間に光が灯る自動販売機や（近頃は減ってきているが）電話ボックス、街灯周辺での写真撮影による撮影記録も行った。

2. 文献調査

宮崎昆虫同好会会報「たてはもどき」等に掲載された延岡市の蛾類記録を調査した。延岡市に合併された北方、北浦、北川の記録についても、2000年以前にもさかのぼって調査した。

3. 個人データ・国勢調査データ

前回調査（2000年）以降の個人データに加え、それ以前の記録でも、前回の報告分に未記載の個人データ（朝日延太郎、宮原義雄、木野田毅）を調査した。さらに国土交通省が1997年～2003年に実施した五ヶ瀬川河川水辺の国勢調査（陸上昆虫類等）のデータも加えた。

3) 確認種リスト

今回の調査で記録された延岡市産蛾類の科別種類数は、計37科、972種にのぼる（表1）。確認された全種リストを表2に示す。

また、前回(2000年)の調査と合わせると、延岡市から記録された蛾類数は、43科、1204種（表3）となる。これまでに延岡市から確認された全種リストを表4に示す。

なお、前回報告ののちに、メイガ科がツトガ科とメイガ科にわかれるなど、科の分類が変わっているところは、新しい分類（科名）でリストを作成し直した。

4) 重要な蛾類の記録

●**ヒマラヤスギキバガ**；宮崎初記録と思われる。愛宕山で6月に撮影した。本州（横浜、熱海、明石、京都など）から記録されており、大阪付近では多産する^{2) 5)}。九州においては、熊本でビヤクシンの害虫として記録されている⁶⁾。食樹は、かつてヒマラヤスギといわれていたが、他の針葉樹にもつくのだろう。

●**ホソバキホリマルハキバガ**；本州、四国、九州、屋久島で記録されているものの、幼虫の食樹など解明されていない、特異な形態を持つ種。宮崎県唯一の記録を、朝日が1985年に北川町大崩山で記録している。九州では、福岡県英彦山、北九州市上津役市ノ瀬、糸島半島、大分県黒岳、祖母山尾平で記録がある。延岡市の山岳地域はまだ

まだ調査数が少ないため、分布の把握は今後の課題であろう。

●**スキバヒメハマキ**；大隅半島、対馬、琉球列島、インドから記録されている種。記録は稀であるが、九州・四国の太平洋岸にそって土着しているものと推定されている。²⁾。発生時期は5月と9～10月とされるが、愛宕町で3月に記録した。宮崎県初記録と思われる。

●**ルリイロスカシクロバ**；本州の限られた地点からのみ記録されていた種だが、木野田が1994年に北川町で記録している³⁾。幼虫はブドウ科のツタやノブドウを食し、ツートンカラーの目立つ姿をしている。

●**サザナミシロアオシャク**；宮崎県レッドデータブック記載種。九州南部以南に分布。安本によって、野田町で採集されている。

●**キモンカバナミシャク**；九州・山口県にのみ生息し、記録地も局限される種。前回の調査(2000年)でも同じ場所(行勝山)で発見したが、その後も同じ場所で生息確認できた。福岡では12月に²⁾、山口では2月に記録されている⁴⁾が、行勝山では1月頃、灯火に飛来する。

●**フタシロスジカバナミシャク**；本種が記録されるのは7～9月であるが、春にも出現するものと推測されている²⁾。今回の調査で、野田町において、安本により12月に採集されており、年多化性の可能性を含めて興味深い記録である。

●**クモオビナミシャク**；本州、四国、九州、屋久島に分布するが非常に少ない種。朝日が北方町鬼の目山で1984年に記録している。九州では熊本県泉村白鳥山、市房山、大官山、宮崎県霧島山系エビノ高原及赤松千本原に記録がある。

●**クロズウスキエダシャク**；北海道～九州、対馬、屋久島に分布するが、九州では比較的産地の少ない種の様で珍しい種である。朝日が、北川町大崩山で記録している。

●**ミスジシロエダシャク**；北海道～九州に分布するが、寒地では多産するが九州では珍しい種。霧島山系、椎葉山、三方岳檜葉での記録があるが、朝日は北川町大崩山で記録している。

●**シロテントビスジエダシャク**；本州、四国、九州に分布し、ブナ帯の固有種と推定されている。朝日が北川町大崩山で記録しているが、比較的珍しい種である。

●**ベニイカリモンガ**；宮崎県レッドデータブックで準絶滅危惧種に指定されている南方系の種。安本が島浦町宇治で 1999 年に記録している。

●**オオシモフリヨトウ**；北海道、本州の山地に産し、四国では石鎚山系に記録あり、年一化、7～9 月に出現する²⁾。朝日が、北方町鬼の目で記録している。九州での記録は珍しく、宮崎県のレッドデータブックにおいて、準絶滅危惧種に指定されている。

●**ウスベニキリガ**；北海道から九州に分布するが、個体数の少ない種。1979 年に朝日が東海で記録している。

●**ミカワキヨトウ**；日本特産種で、産地は静岡県、愛知県、兵庫県、福岡県（英彦山）、熊本県などに局限される。朝日が北方町鬼の目山および北川町大崩山で記録している。

●**ヤマトホソヤガ**；本州中部以西、四国、九州、対馬、屋久島に分布するが稀な種。朝日が、川島須佐、北川町中の内谷で記録しており、また国土交通省の調査でも、野田町小峰潜水橋横で記録されている。

●**スジシロコヤガ**；北海道、本州、九州、対馬、屋久島などに産する。九州本土では福岡県脊振山(1981)、熊本県大官山(1982)、同水上村(1967)で記録がある。朝日が 1984 年に北方町鬼の目山で記録している。

●**ムラサキオオアカキリバ**；北海道から九州に分布するが、分布はなお十分に把握されておらず、延岡市からの記録は貴重である。関東には記録がなく、分布域は、日本海側の新潟、秋田、青森から北海道南端部に達する。九州の他県では福岡県、熊本県に記録がある。朝日が 1984 年に北方町鬼の目山で記録している。

●**ヒメエグリアツバ**；本州、四国、九州、対馬に分布するが珍しい種のようなのである。朝日が 1977 年に大峽で記録している。

5) 外来種

- オキナワマエモンヒメクチバ; 沖縄本島で5~9月に得られている種。野田町で2009年9月に記録された(安本、採集)。貴重な偶産記録と思われる。

他に、まだ延岡市内には侵入していないが、2000年以降九州本土で北上を続けているキオビエダシヤクの動向にも注意したい。2000年には薩摩半島南部の開聞岳周辺でイヌマキを枯死させる被害を与え、2002年には山川町、2003年には、喜入町から鹿児島市内まで北上し、2004年には大隅半島の鹿屋市や垂水市でも発生、2005年以降に宮崎県串間市、都城市、宮崎市などで発生している。2010年には、県北の門川市で目撃されたという情報もあり(未発表)、延岡市への侵入も近いと思われる。

6) データ

記録された全データを別冊「延岡市自然環境調査 データ集」に掲載。

7) 参考文献等

- 1) 延岡市環境基本計画 自然環境調査 報告書およびデータ集(2000)
- 2) 講談社 日本産蛾類大図鑑
- 3) たてはもどき(1994)No.30
- 4) WEBサイト「福岡市の蝶」(<http://www.g-hopper.ne.jp/free/fukuda/index.htm>)
- 5) WEBサイト「みんなで作る日本産蛾類図鑑」(<http://www.jpmoth.org/>)
- 6) WEBサイト「森林総合研究所九州支所」(<http://www.ffpri-kys.affrc.go.jp/>)